

農村地域での生活環境の変化に伴う家族の 育児参加のあり方に関する研究

佐藤 信和*, 石川 貴美*, 三浦 悦子*
栗山 孝子*, 若松 若子*, 黒木 洋子*

要約：当支所管内では、（5町1村人口46,502人の出生数 414人）兼業農家が増え、若い母親は、秋田市など近郊の誘致企業等に就労している。一方、家族の形態は三世代が47%である。

日中の子供の養育者は祖父母が多く、乳幼児健診の高受診率の中で「ちょっと気になる子」は、家族の意見の食い違いから、解決の決め手が見つからない現状にあるので、家族の育児参加のあり方について検討した。

見出し語：誘致企業、ちょっと気になる子、家族の育児参加

研究方法：五城目支所管内で行われている乳幼児健診及び乳児相談、幼児教室について、見直しを話し合いにより行った。

結果と考察：当支所管内の乳児健診（4、7、10か月児）、1才6か月児健診、3才児健診の受診率は、90%以上である。また、3町1村では、生後2か月に乳児相談を開催している。

事後指導として5年前から幼児教室を毎月1回、児童相談所、秋田福祉事務所との連携のもとに開催している。

母子保健事業の見直しで得た主な内容は、次のとおりである。

1) 健診には、主に母親が参加しているが、日中保育している祖父母への遠慮、三世代家族における育児に対する意見の食い違いがある。

2) 微症状「ちょっと気になる子」は幼児教室へ勧奨しても参加しない。

3) 幼児教室参加者をみても障害のはっきりしていない親に働きかけがむずかしい。

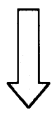
以上のことから、育児にかかわる人々の「気づき」のチャンスの場づくりとして次年度は、町村の乳児相談の場を活用し連携のあり方を検討したい。

・乳幼児健康診査受診状況（S63年度）

	対象数	受診数	受診率	健診率	
				人員	率
乳 児	715	673	94.1	137	10.4
1才6か月児	454	428	94.3	44	10.3
3 才 児	470	424	90.2	50	11.8
幼児教室	S59年度からの延対象数75人 （ことばの遅れ、多動、友達と遊べない等）				

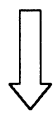
*秋田県秋田保健所五城目支所

（Gojonome of Branch of Akita Public Health Center Akita Pref）



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:当支所管内では、(5町1村人口46,502人の出生数414人)兼業農家が増え、若い母親は、秋田市など近郊の誘致企業等に就労している。一方、家族の形態は三世代が47%である。日中の子供の養育者は祖父母が多く、乳幼児健診の高受診率の中で「ちょっと気になる子」は、家族の意見の食い違いから、解決の決め手が見つからない現状にあるので、家族の育児参加のあり方について検討した。